

平成 26 年度事業報告

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

平成 26 年 5 月 27 日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、平成 25 年度事業報告の件を報告し、

第 1 号議案 平成 25 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件を諮り、原案どおり承認された。

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については退会 3 法人、個人会員については入会 239 名、退会 185 名があり、平成 27 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

退会法人会員

東京海上日動フィナンシャル生命保険株式会社

日本興亜損害保険株式会社

全日本自治体労働者共済生活協同組合

以上 3 法人

正 会 員	1,514 名
準 会 員	1,287
研 究 会 員	1,949
小 計	4,750
法 人 会 員	111 法人
合 計	4,861 名・法人

3. 事業報告

〔試験関係〕

(1) 平成 26 年度資格試験の実施

平成 26 年 12 月 15 日、16 日及び 17 日の 3 日間、東京（TOC 五反田）及び大阪（天満研修センター）において実施し、平成 27 年 2 月 13 日に合格者を発表した。第一次試験の受験科目総数は 3,157 科目、うち合格科目数は 620 科目、第二次試験の受験科目総数は 1,330 科目、うち合格科目数は 186 科目、全科目合格者は 95 名であった。

(2) 平成 26 年度 CERA 試験の実施

平成 26 年 9 月 24 日、東京（TKP 大手町カンファレンスセンター）において実施し、平成 27 年 1 月 19 日に合格者を発表した。受験者数は 56 名、うち合格者数は 15 名であった。

(3) 教科書の改訂

「保険 2（生命保険）」教科書について、第 3 章（契約者配当）を改訂した。また、「年金数理」の教科書を改訂した。

〔教育・研修・研究発表関係〕

(1) 平成 26 年度アクチュアリー講座の実施

平成 26 年 5 月 9 日から平成 26 年 10 月 14 日の期間、基礎講座 12 科目及び特論講座 7

科目を実施した。受講者数は基礎講座 91 名、特論講座 38 名であった。

(2) 平成 26 年度関西委員会アクチュアリー講座の実施

平成 26 年 8 月から平成 26 年 10 月の期間、生保数理、年金数理の 2 科目について、関西委員会アクチュアリー講座を実施した。受講者数は生保数理 5 名、年金数理 6 名であった。

(3) 平成 26 年度アクチュアリー追加演習講座の実施

平成 26 年 10 月 1 日から平成 26 年 12 月 5 日の期間、生保数理演習、損保数理演習、年金数理演習及びモデリング演習の 4 科目を実施した。受講者数は生保数理演習 28 名、損保数理演習 64 名、年金数理演習 41 名、モデリング演習 22 名であった。

(4) 平成 26 年度年次大会・IT 研究大会の開催

年次大会は、平成 26 年 11 月 6 日、7 日の 2 日間、経団連会館及び東京ステーションコンファレンスにおいて、IT 研究大会は、平成 27 年 1 月 23 日に三井生命（大手町野村ビル）において開催した。

また、年次大会のビデオ上映会を東京は平成 26 年 11 月 26 日に、大阪は平成 26 年 11 月 25 日、26 日及び 27 日に開催した。

(5) 例会の開催

① 平成 26 年 7 月 15 日

「デバイス、キオスク、そしてアプリも！医療技術の破壊的進歩

－保険業界のリスクとチャンスは」

ティム・ロザー 氏（RGA）

② 平成 26 年 9 月 10 日

「金融機関のポートフォリオにおけるストレステスト分析

－融資ポートフォリオと有価証券ポートフォリオの総合リスク分析－

廣瀬 一正 氏（MSCI Inc）

③ 平成 26 年 10 月 6 日

「相手に伝わるコミュニケーションのポイントとは」

清水 裕一 氏（アルー株式会社）

④ 平成 27 年 1 月 9 日

「ORSA を中心とした Solvency II への対応状況」

Cord-Roland Rinke 氏（ハノーバー再保）

⑤ 平成 27 年 2 月 3 日

「最小二乗モンテカルロ手法：生命保険および年金分野への応用」

David Wang 氏（ミリマン）

⑥ 平成 27 年 3 月 20 日

「最先端の次世代がん診断システム開発へ、産学官連携プロジェクト始動

～13 種類のがんを 1 回の採血で診断～

知場 伸介 氏（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）

(6) 関西委員会例会の開催

① 平成 26 年 7 月 14 日

「現代日本財政を支える租税制度のあり方～特に年金の費用負担方式に着目して」

諸富 徹 氏（京都大学）

- ② 平成 26 年 10 月 28 日
「最先端の次世代がん診断システム開発へ、産学官連携プロジェクト始動
～13 種類のがんを 1 回の採血で診断～」
知場 伸介 氏（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）
- ③ 平成 27 年 2 月 9 日
「リスク理論再訪：動的リスク管理に向けて」
清水 泰隆 氏（早稲田大学）
- ④ 平成 27 年 3 月 10 日
「平成 26 年度関西委員会分科会活動報告」

各分科会

(7) ムーンライトセミナーの開催

平成 26 年 11 月から平成 27 年 2 月にかけて以下のテーマで実施した。

- ① 生命保険商品のプライシングについて
セミナー部会委員
- ② 仮想生保を用いた ALM 実験
吉本 力基 君（ソニー生命）
- ③ 損害保険の料率算出における GLM の活用事例と課題
セミナー部会委員
- ④ 経済価値ベースの ALM の基礎と課題
森本 祐司 君（キャピタスコンサルティング）
松平 直之 君（キャピタスコンサルティング）

(8) 関西セミナーの開催

- ① 平成 27 年 2 月 13 日
「一般化線形モデルの生命保険分野への応用」
「CAT ボンドを用いた再保険リスクヘッジによるリスク削減効果の検証」
「最低保証付変額年金のヘッジに関する評価について」
「純資産変動に対するリスクバッファについて」
「一般化線形モデルを用いた日本銀行の国債買入れに伴うポートフォリオ・リバランス効果の分析」
京都大学保険数学ゼミ学生

(9) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに以下のコンテンツを公開した。

- ① 生保の実務基準（4 月）
- ② 損保の実務基準（4 月）
- ③ 退職給付会計に関する数理実務基準（4 月）
- ④ 標準生命表 2007（4 月）
- ⑤ EU ソルベンシー II における CAT リスクのリスク量計算方法（4 月）
- ⑥ 2012 Global ERM Web Cast（アジア太平洋セッション）（4 月）
- ⑦ 2012 Global ERM Web Cast（ヨーロッパセッション）（8 月）
- ⑧ 成果を生み出すコミュニケーション（9 月）
- ⑨ 職場におけるコミュニケーション（9 月）
- ⑩ 状況別プレゼンテーション手法（9 月）
- ⑪ 交渉とは（9 月）
- ⑫ コミュニケーション（9 月）

- ⑬ 2012 Global ERM Web Cast（アメリカセッション）（12月）
- ⑭ 今日から始める経済価値ベース・ソルベンシー基準 2014（動画）（1月）

(10) プロフェッショナルリズム研修の実施

平成 27 年 2 月 25 日、正会員（今年度の資格試験で全科目に合格した準会員を含む）及び準会員（今年度の資格試験で基礎科目すべてに合格した者を含む）を対象に次の研修内容で実施した。受講修了者は、105 名であった。

IAA シラバスとプロフェッショナルリズム	村田 富生 君（三井生命）
アクチュアリーと行動規範について	奈良 伸一 君（明治安田生命）
生保のプロフェッショナルリズム	中村 亮一 君（日本生命）
損保のプロフェッショナルリズム	金子 洋巳 君（損保ジャパン日本興亜）
年金のプロフェッショナルリズム	片寄 郁夫 君（りそな銀行）
	藤井 康行 君（新日本監査法人）

(11) CERA 研修の実施

平成 26 年 10 月 31 日及び 11 月 1 日の 2 日間、日本アクチュアリー会大会議室において実施し、CERA 試験の受験者を対象に、リスク管理・ALM 等に関する講義やケーススタディによるグループワークを行った。受講修了者は 17 名であった。

(12) Open Discussion Forum について

平成 26 年 12 月 5 日、アクチュアリー会大会議室にて Open Discussion Forum を開催し、外国人アクチュアリーなどと英語によるディスカッション等を行った。

(13) プロフェッショナルリズム継続教育検討プロジェクトチームの設置

継続教育としてのプロフェッショナルリズムの教育を検討するため、プロフェッショナルリズム教育部会の下に「プロフェッショナルリズム継続教育検討プロジェクトチーム」を設置した。

(14) 新・継続教育制度に向けた対応

平成 27 年度から実施される新・継続教育制度を円滑におこなうため、以下を実施した。

- ① 平成 26 年 11 月に集合研修の出席状況、及び e-ラーニングの受講状況を、正会員にフィードバックした。
- ② 平成 27 年 3 月に新・継続教育制度において集合研修の出席確認をおこなう IC カード（CPD カード）を、正会員に配布した。

〔調査・研究活動〕

(1) 標準死亡率諮問委員会の開催

平成 26 年 10 月 30 日に開催された第 20 回標準死亡率諮問委員会において、「生保標準生命表 2007（死亡保険用）」、「生保標準生命表 2007（年金開始後用）」及び「第三分野標準生命表 2007」について、平成 27 年度に継続適用することが了承された。

(2) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準については、IASB（国際会計基準審議会）及び IAIS（保険監督者国際機構）において精力的な検討がなされており、それぞれの機関会員であ

る IAA（国際アクチュアリー会）は、アクチュアリー専門職団体として、委託研究等の活動を行っている。本会は、IAA の委員会活動に積極的に参画するとともに、国際基準対策委員会等において経済価値ベースのソルベンシー規制についての検討などを進めている。

(3) 実務基準の整備

- ① 平成 26 年 9 月に IASB から公表された Annual Improvements to IFRSs 2012-2014 Cycle による IAS19 の改定（Discount rate: regional market issue）に伴い、「退職給付会計に関する数理実務ガイダンス」について、平成 26 年 11 月に所要の改定を行った。
- ② 1 号収支分析を補完する観点からの保険契約が消滅するまでの長期の期間に亘る収支分析の新設に伴う対応、および表現の統一を図るため、「生命保険会社の保険計理人の実務基準」について、平成 27 年 3 月に所要の改正を行った。

(4) 「生保商品特別検討 WG」設置

保険商品数理に係る検討組織として、企画委員会の下に「生保商品特別検討 WG」を設置した。

(5) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始めに定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を本会ホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用のホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

〔意見表明〕

(1) IAA のカウンスルでの投票（電子投票を含む）

- ① 平成 26 年 6 月、ガバナンスレビュー・タスクフォースの報告等に関して、賛成として投票を行った。
- ② 平成 26 年 9 月、指名委員会の協定書の改定等に関して、賛成として投票を行った。
- ③ 平成 26 年 12 月、会員資格等に関して、賛成として投票を行った。
- ④ 平成 27 年 2 月、ISAP7 の最終版の作成趣意書に関して、賛成として投票を行った。
- ⑤ 平成 27 年 3 月、Jane Curtis（欧州）をエクゼクティブ・コミッティーの委員に任命することに関して、賛成として投票を行った。
- ⑥ 平成 27 年 3 月、2014 年度の監査済の財務諸表（案）の承認に関して、賛成として投票を行った。

(2) 平成 26 年 6 月、IAA に対し、保険会社の ERM モデルとプログラムに関する国際アクチュアリー実務基準 (ISAP5・6) の趣意書案に対する意見を提出した。

(3) 平成 26 年 8 月、IAA に対し、ISAP7（IAIS 資本基準に関する現在推計およびその他の事項）作成趣意書案に対する意見を提出した。

(4) 平成 26 年 11 月、IAA に対し、ISAP3（IAS19 従業員給付の数理実務に関する ISAP）のファイナルドラフトに対する意見を年金数理人会と連名で提出した。

(5) 平成 27 年 2 月、ASBJ に対し、企業会計基準適用指針第 25 号「退職給付に関する会計基準の適用指針」を改正する公開草案に対する意見を年金数理人会と連名で提出した。

(6) IAA 迅速処理案件

次の案件に対する IAA 意見について、本会からは迅速処理適用に反対する意見は表明しなかった。

- ① 平成 26 年 4 月、IAASB 2015 年～2019 年の戦略計画案・2015 年～2016 年の作業計画案のコンサルテーション・ペーパー
- ② 平成 26 年 8 月、IAIS グローバルなシステム上重要な保険会社(G-SIIs)に適用する基礎的資本要件(第二次案)の市中協議文書
- ③ 平成 27 年 1 月、IASB 料金規制の財務上の影響に関する報告のディスカッションペーパー

〔国際関係〕

(1) IAA 活動

IAA の委員会活動に積極的に参画し、IAA から IASB、IAIS 等への意見発信に参画している。

(2) 第 42 回東アジア・アクチュアリー講座 (ASEA) の実施

平成 26 年 9 月 16 日から 19 日までの 4 日間にわたり、東アジアを中心とする 9 地域から 26 名の参加を得て、アクチュアリーが関わる日本の諸制度の状況等についての講義を実施した。

(3) 国際会議等への派遣等

次のとおり国際会議等に会員を派遣した。

- ① 平成 26 年 5 月 7 日～9 日
河野 年洋 君
IAIS Solvency and Actuarial Issues Subcommittee
(於：マレーシア クアラルンプール)
- ② 平成 26 年 6 月 18 日～19 日
村田 富生 君、前林 義明 君
カナダアクチュアリー会年次大会 (於：カナダ バンクーバー)
- ③ 平成 26 年 9 月 10 日～14 日
浅野 紀久男 君、村田 富生 君、坂本 純一 君、小野 正昭 君、河野 年洋 君、重原 正明 君
中村 吉男 君、池田 真次 君、吉村 雅明 君、辻 芳彦 君、山崎 浩 君、前林 義明 君
IAA 会議 (於：英国 ロンドン)
- ④ 平成 26 年 9 月 28 日～29 日
前林 義明 君
中国アクチュアリー会年次大会 (於：中国 広州)
- ⑤ 平成 26 年 10 月 12 日～15 日
浅野 紀久男 君、村田 富生 君、前林 義明 君、森口 康弘 君
EAAC 会議 (於：台湾 台北)
- ⑥ 平成 26 年 10 月 26 日～29 日
庄司 聡彦 君
SOA 年次大会 (於：アメリカ オーランド)
- ⑦ 平成 26 年 11 月 9 日～12 日
長舟 貴洋 君
CAS100 周年式典・年次大会 (於：アメリカ ニューヨーク)
- ⑧ 平成 26 年 12 月 4 日～5 日
松山 直樹 君、松平 直之 君
英国アクチュアリー会 CERA 研修 (於：英国 ロンドン)
- ⑨ 平成 27 年 2 月 2 日～3 日
森口 康弘 君
第 17 回 Global Conference of Actuaries
(於：インド ムンバイ)

(4) 国際交流関係

平成 26 年度年次大会に、SOA、CAS、及び台湾アクチュアリー会からご来賓をお招きし、国際交流を図った。

〔評議員会〕

- (1) 平成 27 年 3 月 11 日に平成 26 年度評議員会を開催し、平成 26 年度事業報告、平成 27 年度事業計画（案）、アクチュアリーまたはアクチュアリー会の今後のプレゼンス向上について審議した。

〔産学共同〕

- (1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君（住友生命）、上原 尚 君（住友生命）、大嶋 孝造 君（住友生命）、鈴木 剛 君（住友生命）、杉本 和大 君（大同生命）、片寄 郁夫 君（りそな銀行）、豊留 健 君（日本生命）、中山 素生 君（日本生命）及び南 嘉博 君（日本生命）を派遣した。
- (2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君（住友生命）、堀井 俊宏 君（大同生命）及び森 教輔 君（日本生命）を派遣した。
- (3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君（住友生命）を派遣した。
- (4) 東京大学より社会数理特別講義の講師派遣の依頼があり、中村 亮一 君（日本生命）を派遣した。
- (5) 平成 26 年 10 月 20 日から 10 月 23 日に京都大学で日本アクチュアリー会の協賛としてウラジミール・カイシェフ教授（シティ大学ロンドン）による連続講義が開催された。

〔表彰関係〕

- (1) 平成 25 年度資格試験成績優秀者の表彰

① 理事長特別賞・理事長賞の授与

平成 26 年 5 月 27 日に、石川 雄基 君（第一生命）、西山 航平 君（損保料率機構）、斎藤 知輝 君（日本生命）、鳥海 遼 君（日本生命）に理事長特別賞を、小笠原 綾輔 君（日本生命）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀賞の授与

同日、次の 12 名を表彰した。

栗林 司 君	（個人）	数学
十文字 遼 君	（かんぽ生命）	生保数理
川辺 真 君	（個人）	生保数理
堀池 譲立 君	（りそな銀行）	生保数理
上田 航平 君	（かんぽ生命）	損保数理
原崎 文親 君	（みずほ信託）	年金数理
茂木 隼 君	（損保ジャパン）	年金数理
和志武 寛之君	（マニライフ生命）	年金数理

糸本 昌彦 君	(りそな銀行)	年金数理
中川 直幸 君	(あずさ監査法人)	会計・経済・投資理論
中西 孝雄 君	(東京海上日動)	生保 1
廣瀬 優基 君	(第一生命)	生保 2

(2) 優秀論文の表彰

- ① 平成 26 年 11 月 6 日、年次大会において、次の優秀論文を表彰した。

「生命保険会社の営業職員チャネルの収益性検証に関する一考察」

星野 秀夫 君 (住友生命)

- ② 平成 27 年 1 月 23 日、IT 研究大会において、次の IT 関係優秀論文 2 編を表彰した。

「ビジネスルール管理システム (BRMS) の今後の活用」

(IT 研究会 第 2 グループ)

「保険会社におけるソーシャルメディアの活用」

(IT 研究会 第 5 グループ)

〔広報・出版活動〕

(1) 広報活動

- ① 女子高生が将来の自分を明確にイメージして進路選択できるよう、内閣府のリコチャレ応援団体に登録して、アクチュアリーへの活躍などを紹介した。
- ② 学生を主な対象とした「第 23 回アクチュアリーセミナー」を平成 26 年 11 月 29 日に大阪で、平成 27 年 1 月 24 日に東京で開催した。参加者は、大阪 24 名、東京 76 名であった。
- ③ 日本公認会計士協会の森会長と対談をおこない、日本公認会計士協会機関誌「会計・監査ジャーナル」、およびアクチュアリージャーナル第 90 号に対談内容を掲載した。

(2) 情報提供機能の充実

- ① アクチュアリー志望者や一般の人に、アクチュアリーについての理解を深めてもらうため、本会の HP で「アクチュアリー用語集」を平成 26 年 5 月に公開した。
- ② 会員数の増加や出版物の電子化等により会員専用 HP の重要性が高まっているため、平成 26 年 9 月に会員専用 HP を改訂し、デザインのリニューアル、検索機能の強化等を図り、会員の利便性向上を図った。
- ③ 一般の人や海外のアクチュアリー会に、日本のアクチュアリーや本会の活動についての理解を深めてもらうため、平成 26 年 9 月に英文 HP の内容の充実を図った。

(3) 広報誌の改訂

前回の改訂からの経過年数などを踏まえ、広報誌を改訂することとした。

(4) 会報等の刊行

次のとおり会報をはじめ各種の刊行物を発行した。

- ① 会報 第 67 号
- ② 会報別冊 第 271 号「IASB 保険契約 収益の発生」
会報別冊 第 272 号「第 54 回 IT 研究大会報告」
- ③ アクチュアリージャーナル

第 87 号、第 88 号、第 89 号、第 90 号、特別号「リスクと保険」

④ 平成 26 年度 年次大会報告集

⑤ 平成 26 年度 資格試験問題集